

## 経営一転語 64 経営計画書作成の効果

今回は、経営計画書作成の効果を金融機関との関係で述べました。今回は、経営計画書作成の必要性と、前回述べなかった側面からの効果について述べてみましょう。

会社において、社長はまず、「自分の考えている未来像」を示す必要があるということです。社員は、基本的には自分のことしか考えていませんし、会社の未来像など考えてもいません。

その社員に対して、「自分はこの会社をこうしたい」、「このように未来を描きたい」と示さずに、社員に「こうしなさい、ああしなさい」と言っても、社員はそれが何のために必要なのか、どういう考え方からそう指示されるのかが、いっこうに分かりません。

また、社員も会社の未来がどうなるか、自分の未来がどうなるか、不安でたまらないものなのです。

それを解消することができるのが、唯一、経営計画書なのです。

このような意味により、まず、経営計画書によって、自らの意図を明らかにする必要がありますということです。

また、社長自らやりたいことを説明するのに、書類も何もなく、銀行、取引先、投資家などに説明しようとしたら、何時間も時間を費やして、同じことを何回もしゃべらなくてはなりません。

その時間を節約するよい方法が、やはり経営計画書づくりなのです。

経営計画書を作成することによって、自分の考え方を整理できますし、漠然としたビジョンを文字にして表すと、それが、自分の目に入り、それを説明するにあたって、自分の耳に入る、そういうことを通じて、自分の確信に変わっていくものなのです。

しかも、経営計画書を「経営計画書発表会」という場を設け、社員の前で発表するやいなや、社員の目の色が変わり、自分たちの目指すべき方向性が明らかになり、やる気になるのです。

また、経営計画書を作成することで、社長の経営の実力も、ぐんぐんアップしていきます。

そして、作成には非常に苦勞しますが、作成に費やした時間の数千倍、数万倍の時間が、それ以降に節約できるのです。

その意味は、社長はルーティンワークから解放され、社長本来の創造的な仕事ができるようになり「利益が増大する」ということなのです。

このように、「我が社の未来を決めてしまう経営計画書作成に時間を割かない」ということほど、間違った時間の使用方法はないのです。